

# 第47回景況アンケート調査 結果報告書

(令和2年7月29日作成)

## 足利商工会議所

足利市通3丁目2757  
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 2年 4月～ 6月期》実績

《令和 2年 7月～ 9月期》見通し

## 調査要領

### 1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

### 2. 調査期間

令和2年6月17日(水)～令和2年7月6日(月)

### 3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業206社  
(うち回答企業数146社：回答率70.8%)

### 4. 回答企業数

製造業	55	社
繊維工業	17	社
建設業・設備工事業	21	社
卸売業・小売業	23	社
飲食業・サービス業	30	社
計	146	社

### 5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

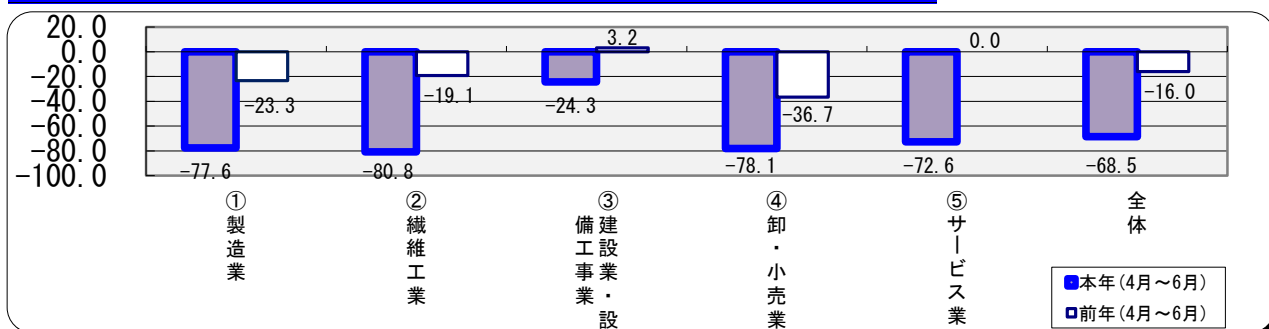
y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数



# I. 当期（4月～6月）の景況について

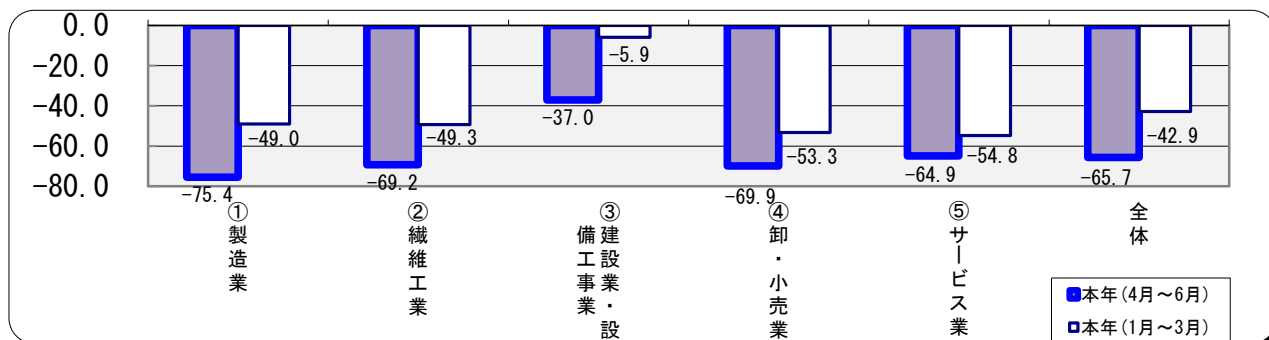
## 1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



### 【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲68.5ポイント(前年同期▲16.0)と、前年同期に比べて52.5ポイント悪化した。業種別でも、サービス業では72.6ポイント、繊維工業では61.7ポイント、製造業では54.3ポイント、卸・小売業では41.4ポイント悪化した。また、建設業・設備工事業では▲24.3ポイント(前年同期3.2)と、27.5ポイント減少し、マイナスに転じた。

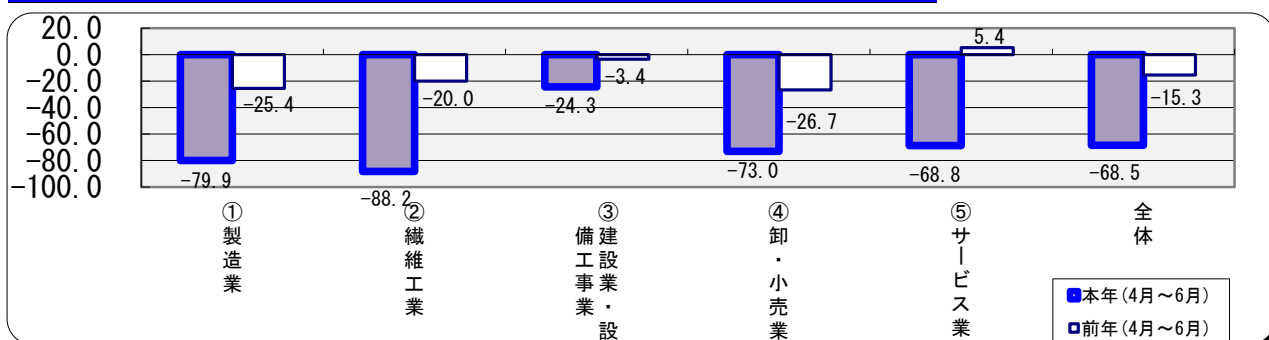
## 2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



### 【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲65.7ポイント(前期▲42.9)と、前期(前3ヵ月間)に比べて22.8ポイント悪化した。業種別では、建設業・設備工事業が31.1ポイント、製造業が26.4ポイント、繊維工業が19.9ポイント、卸・小売業では16.6ポイント、サービス業では10.1ポイントと全業種ともマイナス幅が拡大した。

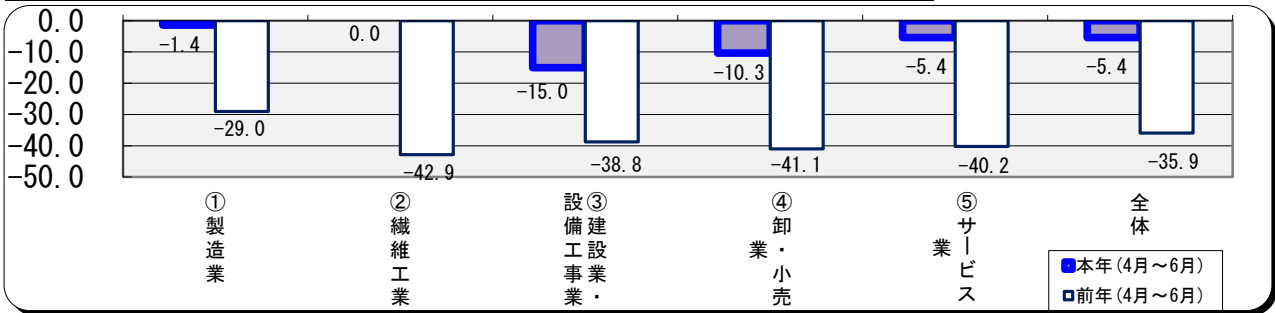
## 3. 売上高は前年同期に比べて



### 【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲68.5ポイント(前年同期▲15.3)と53.2ポイントと大幅に悪化した。業種別では、サービス業では、▲68.8ポイント(前年同期5.4)と74.2ポイント減少し、マイナスに転じた。繊維業では、▲88.2ポイント(前年同期▲20.0)の68.2ポイント、製造業が▲79.9ポイント(前年同期▲25.4)と54.5ポイント、卸・小売業でも▲73.0ポイント(前年同期▲26.7)と46.3ポイント、建設業・設備工事業では▲24.3ポイント(前年同期▲3.4)と20.9ポイントと大きく悪化した。

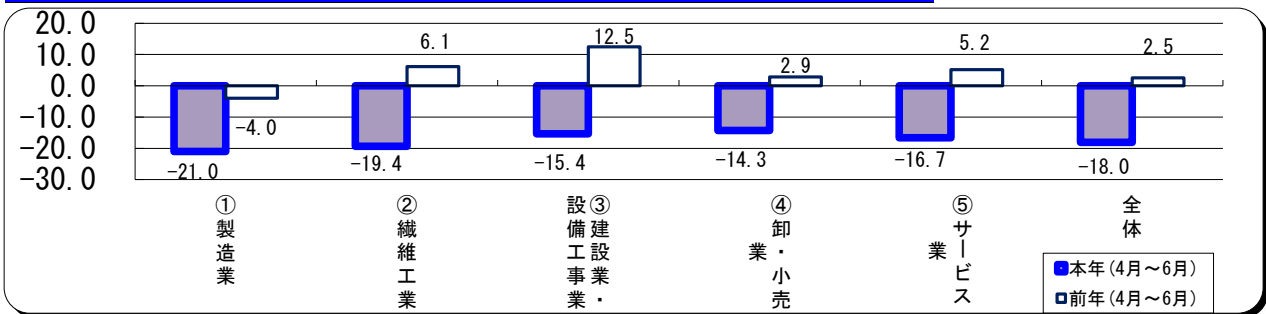
#### 4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



#### 【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲5.4ポイント（前年同期▲35.9）と前年同期に比べて30.5ポイントとマイナス幅が縮小した。業種別でも、マイナスではあるもののマイナス幅が全業種とも縮小の傾向が見られた。

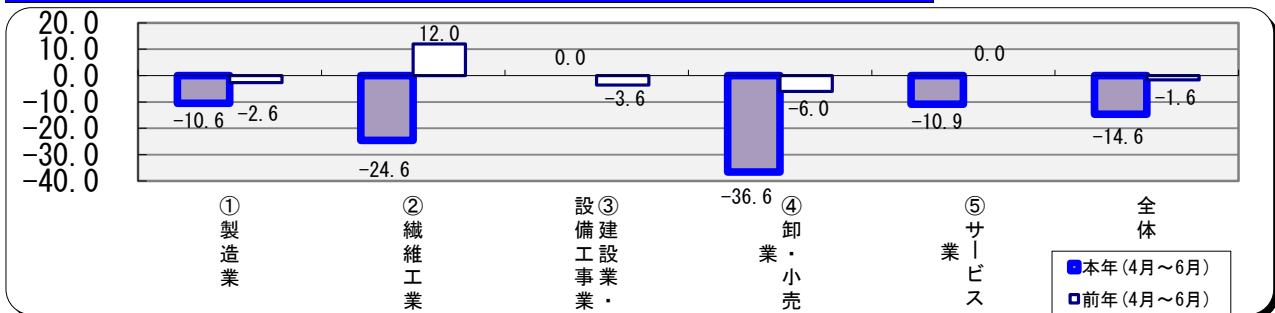
#### 5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



#### 【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲18.0ポイント（前年同期2.5）と20.5ポイント下落し、マイナスに転じた。業種別でも、建設業・設備工事業が27.9ポイント、繊維業も25.5ポイント下落し、卸・小売業、サービス業とともにマイナスに転じた。その他製造業ではマイナス幅が拡大した。

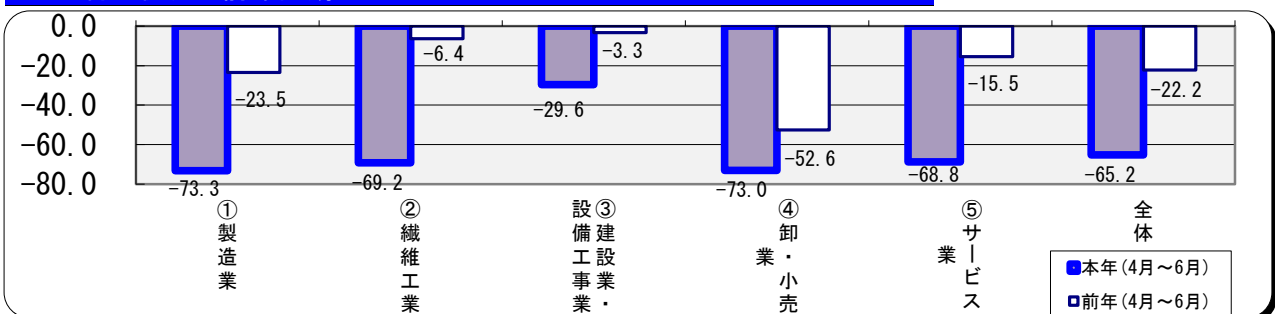
#### 6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



#### 【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲14.6ポイント（前年同期▲1.6）と、前年同期に比べて13.0ポイント悪化した。業種別では、建設業・設備工事業では、0ポイント（前年同期▲3.6）と3.6ポイント改善した。一方、製造業と卸・小売業、サービス業では、マイナス幅が拡大、また繊維工業に至っては▲24.6ポイント（前年同期12.0）と36.6ポイント減少し、マイナスに転じた。

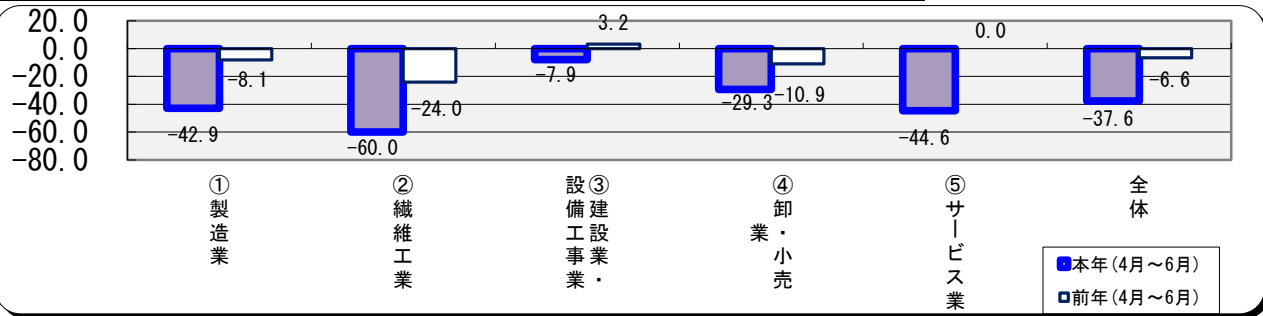
#### 7. 利益状況は前年同期に比べて



#### 【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲65.2ポイント（前年同期▲22.2）と、前年同期と比べて43.0ポイントと大幅に悪化。業種別では、全ての業種でマイナス幅が拡大した。

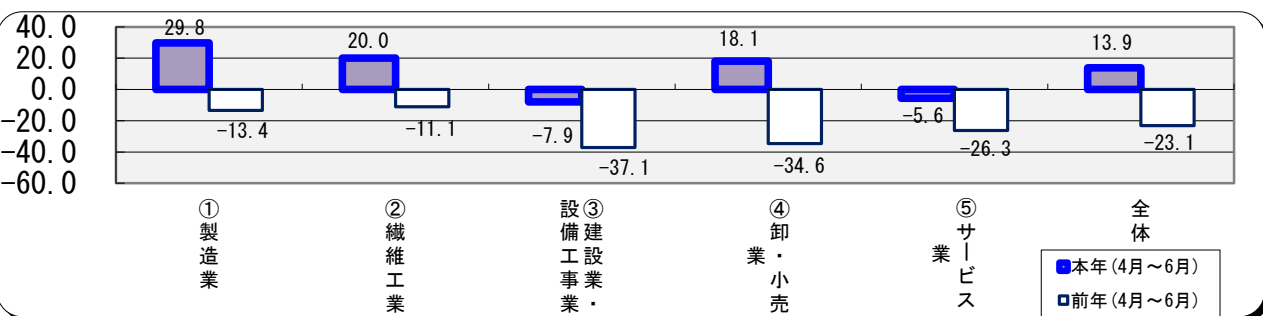
## 8. 資金繰りは前年同期に比べて



### 【資金繰りD I】

資金繰りD Iは、全体では▲37.6ポイント(前年同期▲6.6)と、前年同期と比べて31.0ポイント悪化した。業種別では、建設業・設備工事業が、▲7.9ポイント(前年同期3.2)と11.1ポイント下落し、マイナスに転じた。その他の業種はマイナス幅が増加した。

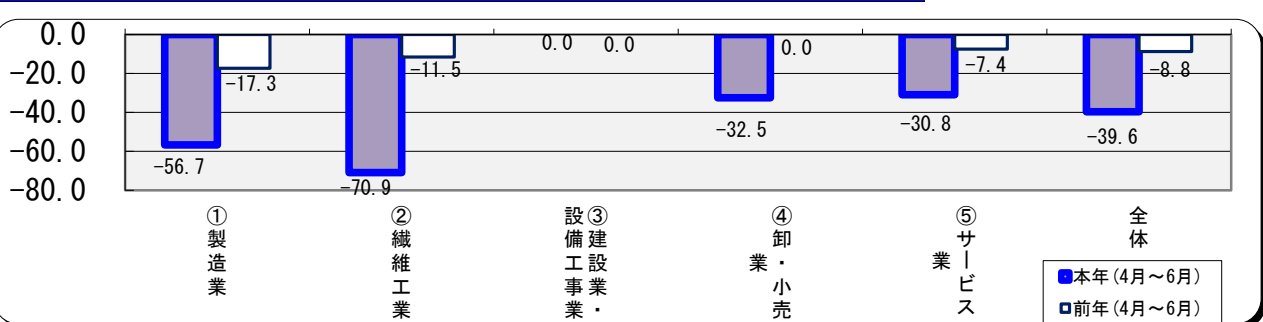
## 9. 労働力は前年同期に比べて



### 【労働力D I】

労働力D Iは、全体で13.9ポイント(前年同期▲23.1)と、前年同期に比べて37.0ポイント改善しプラスに転じた。業種別では、建設業・設備工事業が29.2ポイント、サービス業が20.7ポイント改善し、マイナス幅が縮小した。その他製造業、繊維工業、卸・小売業では、マイナス幅が解消しプラスに転じた。

## 10. 設備稼働率は前年同期に比べて

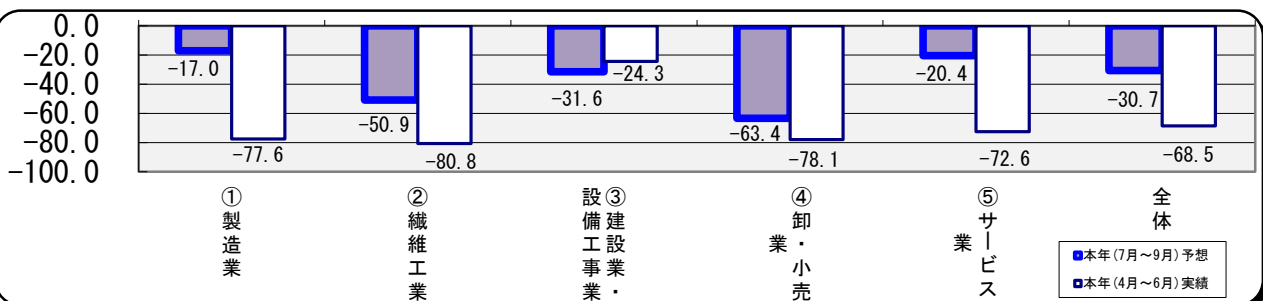


### 【設備稼働率D I】

設備稼働率D Iは、全体で▲39.6ポイント(前年同期▲8.8)と、前年同期に比べて30.8ポイント悪化して、マイナス幅が拡大。業種別では、繊維工業が▲70.9ポイント(前年同期▲11.5)と前年同期と比べ59.4ポイント悪化、その他、製造業、卸・小売業、サービス業もマイナス幅が拡大した。また、建設業・設備工事業が前年同期より0.0ポイントと横ばいであった。

## II. 今後3ヵ月間(令和2年7月~9月)の推移の予想について

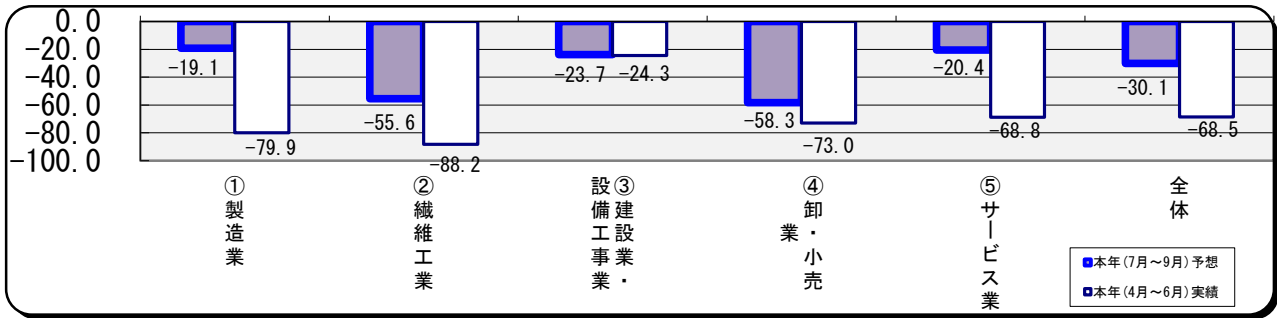
### 11. 業況は当期(4月~6月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲30.7ポイント(当期▲68.5)と、37.8ポイントマイナス幅が改善する見込みだが、依然マイナス傾向が続く。業種別では、建設業・設備工事業では▲31.6ポイント(当期▲24.3)と概ね横ばい。その他の業種は、製造業をはじめ全て、マイナス幅が改善すると予想している。

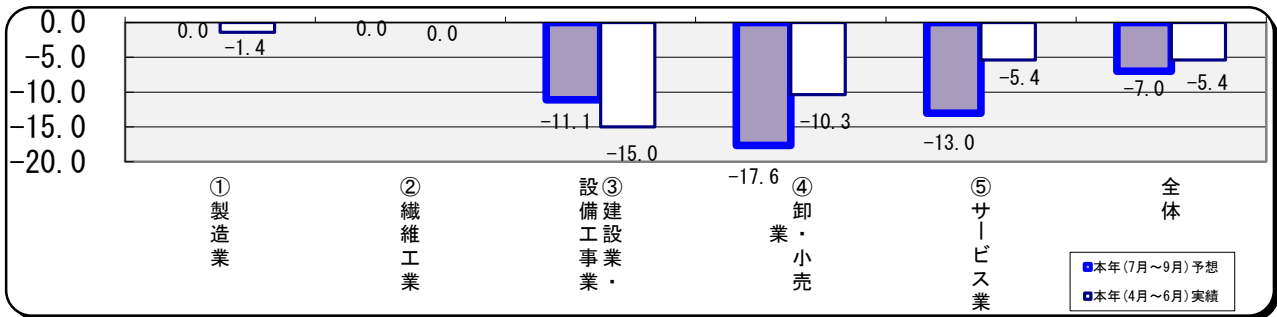
12. 売上高は当期(4月~6月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲30.1ポイント(当期▲68.5)と、38.4ポイントマイナス幅が縮小する見込みだが、依然マイナス傾向。業種別では、建設業・設備工事業では、▲23.7ポイント(当期▲24.3)とほぼ横ばい。その他全業種でマイナス幅が縮小される見込み。

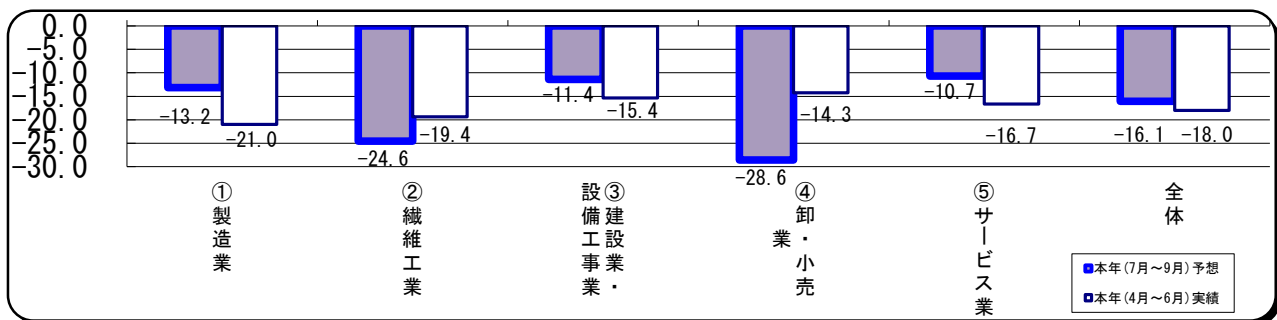
13. 仕入価格(原材料)は当期(4月~6月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料) D Iは全体で▲7.0ポイント(当期▲5.4)と、ほぼ横ばいの見込み。業種別では、卸・小売業、サービス業のマイナス幅が拡大する見込み。製造業、繊維工業では仕入価格は変わらないと見込んでいる。

14. 受注・販売価格は当期(4月~6月期)に比べて

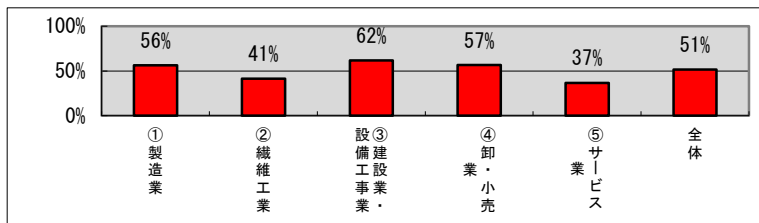


【受注・販売価格D I】

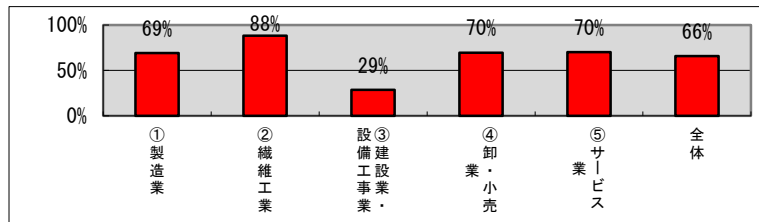
受注・販売価格D Iは全体で▲16.1ポイント(当期▲18.0)と、1.9ポイントと僅かだが減少幅縮小の見込み。業種別では、繊維工業、卸・小売業では悪化、製造業、建設業・設備工事業、サービス業ではマイナス幅が縮小する見込み。

### Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

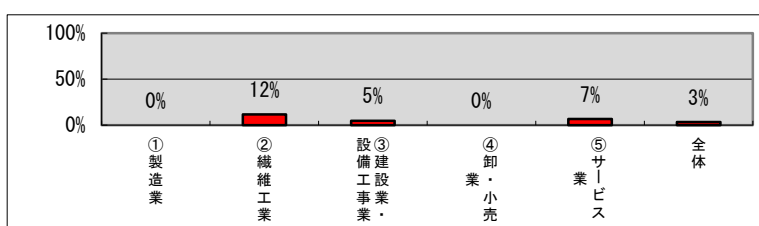
1. 経営の見通し（将来性）		
①. 製造業		31
②. 繊維工業		7
③. 建設業・設備工事業		13
④. 卸売業・小売業		13
⑤. サービス業		11
全	体	75



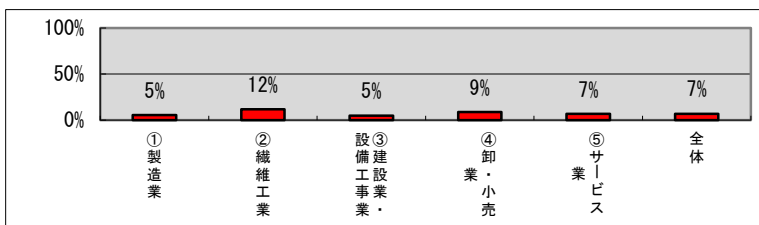
2. 売上（受注）の低下		
①. 製造業		38
②. 繊維工業		15
③. 建設業・設備工事業		6
④. 卸売業・小売業		16
⑤. サービス業		21
全	体	96



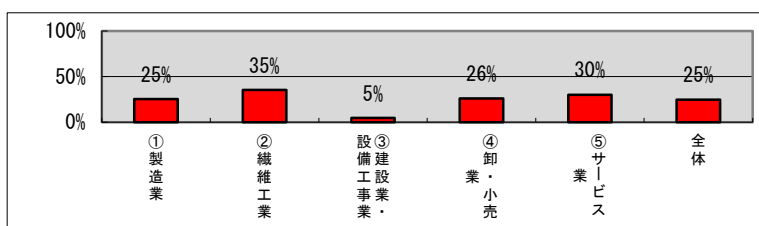
3. 工賃（請負）単価の低下		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		2
全	体	5



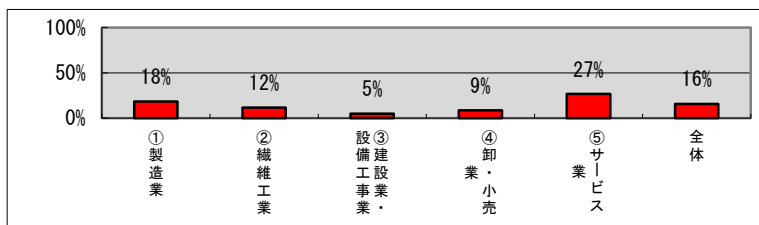
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇		
①. 製造業		3
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		2
全	体	10



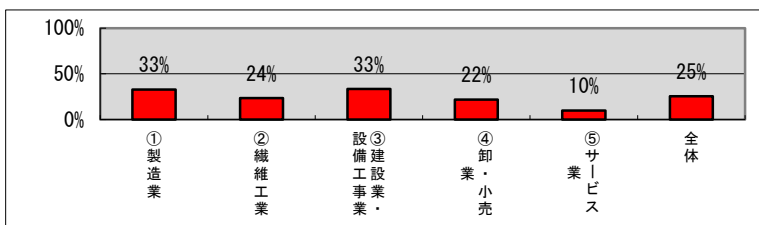
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）		
①. 製造業		14
②. 繊維工業		6
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		9
全	体	36



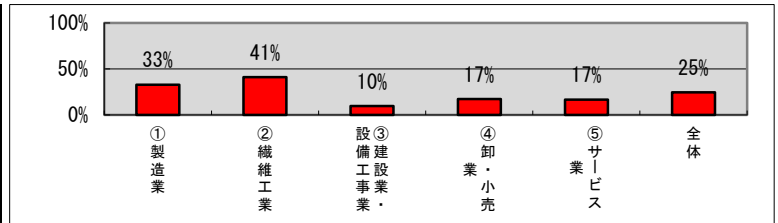
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）		
①. 製造業		10
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		8
全	体	23



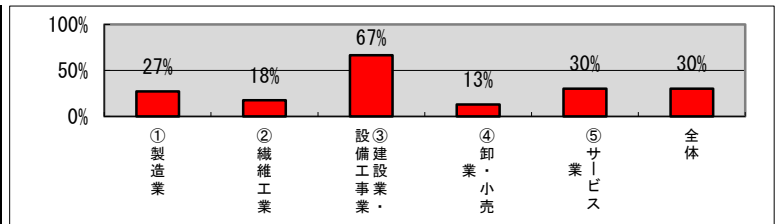
7. 経費（人件費・外注費）の増加		
①. 製造業		18
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		7
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		3
全	体	37



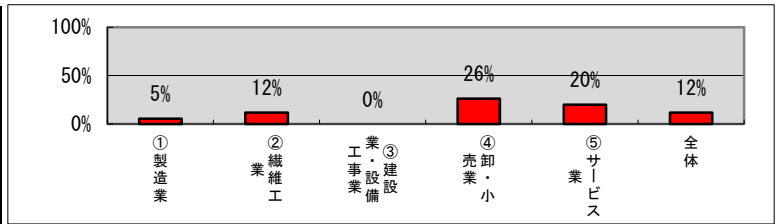
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		18
②. 繊維工業		7
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		4
⑤. サービス業		5
全 体		36



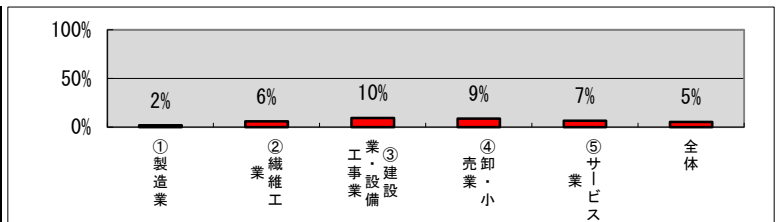
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		15
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		14
④. 卸売業・小売業		3
⑤. サービス業		9
全 体		44



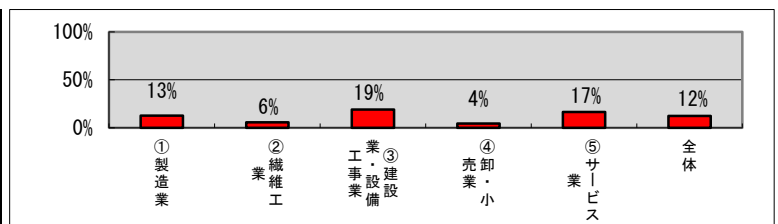
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		3
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		6
⑤. サービス業		6
全 体		17



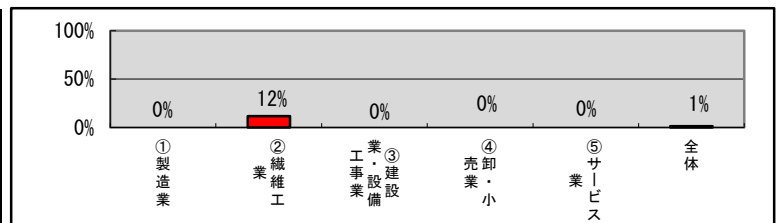
11. 業者間(大企業進出・新規参入)競争の激化		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		2
全 体		8



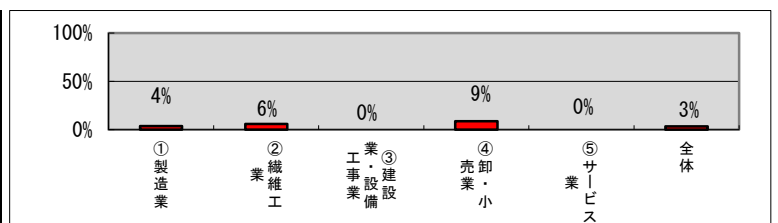
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		7
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		5
全 体		18



13. 円の動向による影響		
①. 製造業		0
②. 繊維工業		2
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		0
全 体		2



14. 電気料金値上げに伴う対応		
①. 製造業		2
②. 繊維工業		1
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		0
全 体		5





## 【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が66%で最も高く、次いで「経営の見通し(将来性)」(51%)、「技術者(従業員)の確保難」(30%)、「資金繰りの悪化(資金調達等)」(25%)、「経費(人件費・外注費)の増加」(25%)、「設備・店舗・工場等の老朽化」(25%)と、続いている。

業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業、サービス業が「売上(受注)の低下」を深刻な問題として挙げている。

また建設・設備工事業では、「技術者(従業員)の確保難」と「経営の見通し(将来性)」が挙げられている。

コロナウイルス感染拡大の影響が続いていることにより、現時点で影響を受けていない企業でも感染拡大が長期化することで、少しずつ全業界に影響が広がり、売上減少はもとより、資金繰りの悪化、人員の削減等の影響は避けられない。

## 【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

### ◎製造業

- ・現時点ではコロナ禍で受注数量、売上に対して追い風となっている。しかし、同禍による世界的な景気後退、物流の動きの低下については、注視していく必要がある。この時期、無理をせず、5S活動の徹底を通じて足元を固めていきたい。
- ・前年同月と比較して、売上が53%のため、持続化給付金の対象にならなかった。
- ・新型コロナの影響は本業にも影響があったが、社内の人間関係にも多大な影響を与えた。人が人を疑い、ストレスがたまりと、負のスパイラルが続き、精神面で限界に達していた。GW明けから全国的に感染減となり、心の余裕が出てきたようだが地獄のような数か月であった。
- ・ここ3ヶ月位は新型コロナ関連の製品の受注が急増し仕事を多くいただいているが、世界の大混乱が今後どのように世界経済に影響するか先が見えず不安。
- ・昨年10月台風により浸水被害にあい、設備、工場の立て直しを考えていたところに、コロナウイルスにより受注の低下。

### ◎繊維工業

- ・春夏が受注の悪化状態だった為、回復させる為、秋冬の注文をとるようにする。(例年よりも)。第2波が来ないことを望む東京がロックダウンしたら春夏以上に影響が出ると予測する。

### ◎卸・小売業

- ・雇用の維持・確保、雇用調整助成金の支給が遅い。
- ・毎年5~7月に納入している商品が90%キャンセルされた。新型コロナウイルス感染予防のため需要が停止になったことが原因。世界的には日本は感染者が少ないが政策や給付金の給付が遅い。二次感染による更なる不景気が恐怖。早急にワクチン開発してほしい。
- ・コロナの今後の見通しがどのようになるのか全く分からないので回答も難しい。

# 足利市のチラシ折込調査レポート (2020.05)

調査地：足利市伊勢町

## 食品スーパーの出稿大幅減！

2020年5月の足利市の折込広告枚数は144枚で前年比マイナス60.2%（前々年比はマイナス64.3%）であった【※栃木県4地区平均では165.3枚、前年比-56.4%】。新型コロナウイルスに伴う出稿中止が業種を問わず相次いだ。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の68.1%であった。次いでB3(A3)サイズの29.9%となり2種類のサイズが98%を占めた。また曜日別では、日曜日が最も多く全体の22.2%に上り、次いで金曜日と土曜日の18.1%（同率）、水曜日と木曜日の12.5%（同率）、火曜日、月曜日と続いた。

業種別では**医薬・化粧品**が26枚（前年比-36.6%）で、レポート開始以来初めての首位となった。2位は**食品スーパー**で20枚（前年比-77.8%）、3位は**衣料洋品**で15枚（前年比-55.9%）であった。4位は**不動産・建築**で11枚（前年比-54.2%）、5位は**輸送機器**で6枚（前年比-60.0%）となり、上位5業種全てがマイナスとなった。

		12月	1月	2月	3月	4月	5月
足利	枚数(枚)	358	356	341	332	195	144
	前年比(%)	▲16.7	▲13.6	▲4.7	▲32.1	▲53.3	▲60.2
	前々年比(%)	▲28.3	▲21.6	▲18.2	▲38.6	▲55.2	▲64.3
栃木県平均	枚数(枚)	401.8	381.5	362.5	341.8	211.8	165.3

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

## 業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2020年5月1日～31日)

順位	業種（細分類）	枚数			前年比 (%)	前々年比 (%)
		20年	19年	18年		
1	医薬・化粧品（ドラッグストア・通販等）	26	41	52	-36.6	-50.0
2	食品スーパー	20	90	97	-77.8	-79.4
3	衣料洋品店	15	34	37	-55.9	-59.5
4	不動産・建築	11	24	22	-54.2	-50.0
5	輸送機器（自動車・カー用品等）	6	15	20	-60.0	-70.0

## サイズ別枚数 (2020年5月1日～31日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	2	43	98	1
0.0%	1.4%	29.9%	68.1%	0.7%

## 曜日別枚数

(2020年5月1日～31日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
32	10	14	18	18	26	26
22.2%	6.9%	9.7%	12.5%	12.5%	18.1%	18.1%

調査：(株)栃木読売 IS



